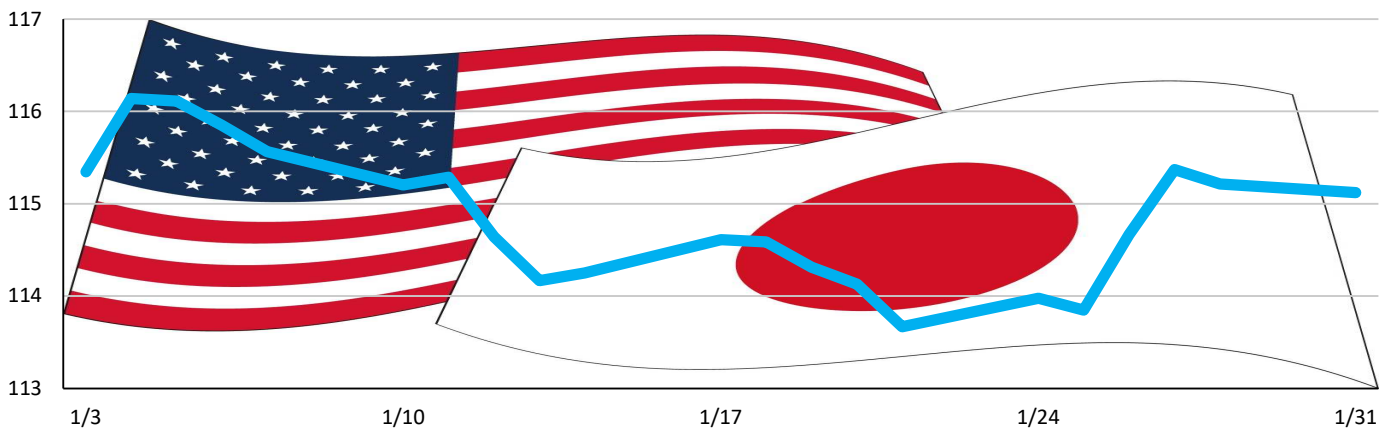


MARKET REVIEW

先月の振り返り：1月のドル円相場は116円半ば～113円半ばで推移。FOMC議事要旨の内容が強気なことを背景にドル高が進んだものの、パウエルFRB議長が金融政策について新たな方針を示さなかったことや新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからないことで、リスク回避の動きが広がり株式市場が軒並み急落。さらにウクライナ情勢が緊迫化の様相を呈してきたこともあり、ドル円は一時113円台半ばとなった。その後はFOMCを控えてドル売りは落ち着いていたが、そのFOMCにおいて次回利上げに踏み切ると予告されたことを好感したことによるドル買いで、115円台半ばまで大きく値を戻した。月末にかけて売り買いが交錯したものの115円台を維持して1月を終えた。

(円) 米ドル円為替レート(終値ベース)



EXTRA VISION

今後の展開：各国の金融政策発表を終えてドル高基調は継続していくだろう。特に日米金融政策の違いは大きく、金利差拡大を背景とした円安ドル高の材料となっていることから底堅い動きとなりそうだ。ただ、オミクロン株による感染拡大がリスク要因となっていることに加えて、ウクライナ情勢が緊迫化を増していることから地政学リスクも大きくなっている。米露会談が行われるなど外交努力は継続しているが、軍事介入の可能性は否定できないため、今後も急な動きに対処できるように備えておきたい。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
2 / 16 (水)	22 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆
2 / 24 (木)	22 : 30	US	米GDP改定値	☆☆☆☆
2 / 25 (金)	0 : 00	US	新築住宅販売件数	☆☆☆☆
2 / 25 (金)	22 : 30	US	個人消費支出	☆☆☆☆
3 / 4 (金)	22 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
3 / 10 (木)	21 : 45	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆
3 / 10 (木)	22 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなされるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。